

A. 主な動き

1. 内政

▼大統領選出に向けた動き

・29日、ルプ大統領代行兼議会議長は、与党連合AEIの会合において、大統領候補はバカル氏以外にも可能性がある旨発言。

・1日、ルプ大統領代行兼議会議長は、議会本会議において、大統領候補リストの再検討の可能性につき言及。また、同日、議会は、大統領選挙日程の審議を6日に延期する旨発表。

2. 経済

▼対EU関係

・27日、モルドバを訪問中のデ・グフト貿易担当欧州委員は、モルドバとの深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)の協議が2013年の秋には完結する旨発言。更に同委員は、モルドバがこのプロセスのためのより良い準備を行っているため、交渉過程は縛られないものであり、ウクライナのような他国と比較して短時間で協議が終了するだろうとの見通しを示唆。

3. 外政

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のジュネーブ訪問

・29日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ジュネーブで開催された国連人権理事会第19回会合に出席し、人権分野の国連機関強化に対するモルドバの支持を表明。引き続き、同副首相は、トカレフ国連ジュネーブ事務局長とモルドバと国連機関との協力関係につき意見交換し、モルドバの国連軍縮会議への参加を表明。

▼その他

・27日、デ・グフト欧州委員は、フィラト首相と会談し、貿易・経済分野におけるモルドバ・EU関係につき協議。フィラト首相は、EUとのDCFTA交渉が開始される運びとなったこと、またEUのモルドバに対する政治的・財政的支援に対し謝意を表明。

・28日、モルドバを実務訪問したマンセルヴィン欧州委員会内務局長は、ゲルマン外務・欧州統合省次官と会談し、モルドバはEUとの査証免除化に向けた行動計画の第一段階を履行し、査証免除化交渉は6月にも第二段階に移る旨発言。

・29、1日両日、ゲルマン外務・欧州統合省次官は、ベルリンにおけるモルドバ・ドイツ政策協議に出席し、モルドバの欧州統合プロセス、モルドバ・EU間査証免除化及びDCFTA問題等に関し協議。

4. 沿ドニエストル

▼「5+2」者公式会合の開催

・28、29両日、ダブリンにおいて、沿ドニエストル紛争解決に向けた「5+2」者公式会合が開催され、アイルランド外務・貿易相のフォーレOSCE議長国沿ドニエストル問題特別代表が議長を務め、当事者であるモルドバからカルポフ国家再統合問題担当副首相が、沿ドニエストル側からシュタンスキ「外相」が出席し、仲介者とオブザーバー各国が参加、交渉プロセスの原則及び手順に関し協議。

・29日、OSCE議長国のギルモア・アイルランド副首相兼外務・貿易相は、本公式会合の進展を歓迎、交渉の原則及び手順への早期合意を求める旨のコメントを発表。会合出席者は、「5+2」者会合の定期的開催に合意し、次回会合は4月後半にウィーンで開催することを決定。

・会合後、シュタンスキ「外相」は、沿ドニエストルとモルドバ双方の交渉における平等性をモルドバ側が認めなかった旨の不満を表明。

▼その他

・1日、シェフチューク「大統領」は、露大統領選挙においてプーチン候補を支持する旨表明し、ロシア国籍をもつ住民に対し同候補への投票を呼びかけ。

・1日、モルドバ外務・欧州統合省は、4日の露大統領選挙に際し、在モルドバ露大使館による沿ドニエストル地域内に多数の投票所を設置する決定を非難する声明を発表。

・2日、ルプ大統領代行兼議会議長及びフィラト首相は、キシナウにおける沿ドニエストル紛争勃発20周年式典に出席し、シュテファン・チェル・マレ像及び「悲しみの母」像に献花、黙祷。同日、シェフチューク「大統領」は、ドゥボサリにおける沿ドニエストル紛争20周年追悼集会に出席し、記念碑に献花。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)